

SCHEDULE

展覧会スケジュール 2026

企画展

暗闇をくぐってみたら

Part1 竹内公太展

2026年5月1日（金）－6月28日（日）

Part2 笹岡由梨子展

2026年7月18日（土）－9月23日（水・祝）

改修工事中の美術館。秘密の入口をくぐり、真っ暗な闇を進むと、そこには異世界（アナザーワールド）が広がっている……。気鋭のアーティスト 2 人による連続個展。第一弾は、石碑や歴史の遺構をテーマに制作を行う竹内公太による「のののののまつり」。市原に流れる時間をディープに巡り、遡る。第二弾は、映像とキャラクター、そして歌を核に独自の物語空間を生み出す笹岡由梨子。湖のほとりに、「あり得たかもしれない世界」を現出させる。

河口龍夫展「関係－無関係 湖畔にて」

2026年10月16日（金）－2026年12月20日（日）

「関係」という概念を軸に、半世紀以上にわたり思考と制作を重ねてきた日本を代表する現代美術家、河口龍夫。本展は、美術館の建築および湖畔という周辺環境に着想を得た新作と、房総のアトリエで制作された未発表作品を中心に構成される。昆虫から宇宙まで、ジュラ紀から現在まで――持続する、旺盛な創作欲とみずみずしい好奇心に導かれた作品世界を展観する。

第14回市原湖畔美術館子ども絵画展

2027年1月9日（土）－2月7日（日）

第一線のアーティストが審査にあたり、子どもたちの作品とコラボレーションする毎年恒例の「子ども絵画展」。今回のゲストアーティストは、手で一斗缶から直接油絵具を掴み取り、大胆に絵画を制作する水戸部七絵。公募テーマは「くつ」。思い出のくつ、はいてみたいくつ、子どもたちが想像力豊かに描くいろいろな「くつ」が大集合。アーティストの「くつ」と共演する。

SCHEDULE

展覧会スケジュール 2026

常設展

曖昧な気配

2026年7月18日（土）－9月23日（水・祝）

読み取れない表情、合わない視線、不可思議なモチーフの配置、現実感のない景色—作品の背景に漂う奇妙な違和感が創造力をかきたてる。市原市が所蔵する約730点の作品から左京武允、小松富士子、武内和夫などが手掛けた人物画を中心に約20点の作品を展示する。

深沢幸雄と文学の世界

Vol.1 2026年9月29日（火）－12月20日（日）

Vol.2 2027年1月9日（土）－2月7日（日）

日本を代表する版画家であり、市原市名誉市民である深沢幸雄。文学に親しみ、宮沢賢治の詩画集をはじめとした挿絵を数多く手掛けてきた。文章からイメージを拾い上げ、抽出し、深い表現を追求した深沢の挿絵は文学の世界観を可視化している。本展では、エドガー・アラン・ポー、萩原朔太郎、中原中也などの文学から着想を得て制作された銅版画作品を展示する。

かたち、いろいろ

2027年2月13日（土）－3月28日（日）

1974年にメキシコを訪れた深沢幸雄は、その文化に魅了され、抽象的な文様や幾何学のような図形、鮮やかな色使いを特徴とする作品を手掛けるようになった。華やかでありつつも根源的なパワーがみなぎる1970～80年代の作品とともに、氏の教え子でもある高橋甲子男、鶴岡洋の作品を展示する。

*メンテナンス休館：4/1～4/30、6/29～7/17、9/24～9/28、12/21～1/8（年末年始休館を含む）
2/8～2/12

*本スケジュールは予告なく変更する場合がございます。

美術館や展覧会に関する詳細は、美術館HPやSNSをご覧ください。